

(別記)

## 設楽町農業再生協議会水田フル活用ビジョン

### 1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当該地域は多くが山林という地域であり、鳥獣被害が多くみられる。山林付近の水田では鳥獣害による緩衝地としての自己保全管理も多くある。高齢化も進み、担い手の不足など農地の維持が問題としてあげられる。農地集積を行うとともに担い手への支援、鳥獣害に強い作物への作物転換などを行う必要がある。

地域の作物としては、水稲が多くを占めている。他にも道の駅や直売所などに並ぶ地元野菜等が振興作物として地域の農家を支えている。

### 2 作物ごとの取組方針

#### 1) 主食用米

売れる米作りの徹底により米の主産地としての地位を確保する。前年の需要動向や集荷業者等の意向を勘案しつつ米の生産を行う。

#### (2) 非主食用米

##### ・加工用米

当該地域の加工用米は、地元酒造メーカーへの販売を中心に生産を行っており、近年、加工用米の需要が高まってきている。

複数年契約を推進しつつ、地元の実需者との結びつきを強化して生産の拡大を図っていき、50ha 近くの生産を目指す。

#### (3) そば

そばは、地域の実需者との契約に基づき、現行の栽培面積を維持する。

#### (4) 野菜・花き・花木・果樹

別紙明細の野菜・花き・花木・果樹を振興品目とし面積は現状維持とする。

#### (5) 不作付地の解消

調整水田等の不作付地の改善計画の提出がある農地で3年以上解消にならない農地は、農地中間管理機構に預けるまたは、担い手への集積を行い、不作付地の解消をおこなう。3年以上自己保全管理の農地及び3年以上耕作放棄地になっている農地も同様に扱う。

このような農地に関して、農地中間管理機構に預けるまたは、担い手への集積、その他行政等の補助事業を行う。

### 3 作物ごとの作付予定面積

作物	平成 25 年度の作付面積 (ha)	平成 28 年度の作付予定面積 (ha)	平成 29 年度の目標作付面積 (ha)
主食用米	220.5ha	223ha	223ha
加工用米	35.5ha	48.65ha	48.65ha
米粉用米	0.1ha	0.1ha	0.1ha
そば	2.2ha	2.0ha	2.0ha
その他地域振興作物	35.2ha	36.7ha	36.7ha
・野菜	34.4ha	36.0ha	36.0ha
・花き・花木	0.6ha	0.5ha	0.5ha
・果樹	0.2ha	0.2ha	0.2ha

### 平成 28 年度に向けた取組及び目標

取組 番号	対象作物	取組	分類 ※	指標	平成 25 年度 (現状値)	平成 28 年度 (予定)	平成 28 年度 (目標値)

※「分類」欄については、要綱（別紙 11）の 2（5）の ア、イ、ウのいずれに該当するか記入して下さい。

（複数該当する場合には、ア、イ、ウのうち主たる取組に該当するものをいずれか 1 つ記入して下さい。）

ア 農業・農村の所得増加につながる作物生産の取組

イ 生産性向上等、低コスト化に取り組む作物生産の取組

ウ 地域特産品など、ニーズの高い製品の産地化を図るための取組を行いながら付加価値の高い作物を生産する取組

### 5 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり

※ 地域農業再生協議会が水田フル活用ビジョンを策定する場合には、都道府県水田フル活用ビジョンの後に添付してください。